

平成 15 年度	<p>テーマ 「確かな学力の向上を目指して」</p> <p>研究の見通し 個に応じた指導の充実を図る研究や実践の推進には、習熟度別教科を柱としながら、全教科で取り組むことが効果的である。</p> <p>研究の内容・方法 平成14年度及び平成15年度の習熟度別授業の成果の検証 「学力」「学力向上」「個に応じた指導」など、教科の担う役割の明確化 子ども・保護者に関われた評価の在り方の研究 中間発表会</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 「確かな学力の向上を目指して」</p> <p>研究の見通し 生徒一人ひとりの学力の向上には、全教科が共通のめあて（学校教育目標をもとに教科で設定した生徒の姿の実現）をもって、それぞれの特徴を生かしながら取り組むことが効果的である。</p> <p>研究の内容・方法 平成15年度に明確化した「学力向上の具体例」の具現化を意識した指導の実践・検証</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制

<p>教育課程特別委員会内に「フロンティア事業」担当部門をおき、教育課程全体との関連性をもたせながら研究を推進している。</p>
--

(4) 研究日程

月	実 践 研 究 の 内 容
4	研究推進組織の編成 ・本年度研究方針（内容・方法など）の検討
5	習熟度別授業・選択授業の開設（体制整備・生徒と保護者への案内） ・教育課程・評価・習熟度別授業についての保護者説明会 ・1学期「学びの内容と評価のめやす」冊子配付 横浜地区学力向上推進連絡協議会
6	各教科ごとの研究会
7	教科内授業研修 ・習熟度別授業実施教科会 ・1学期の研究のまとめ ・生徒へのアンケート調査実施 横浜地区学力向上推進連絡協議会
8	学習相談実施

	<p>校内研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導と評価について ・2学期の研究計画と評価計画作成 ・公開授業研究会について
9	<p>学習相談実施</p>
10	<p>2学期「学びの内容と評価のめやす」冊子配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科ごとの研究会（公開授業研究に向けて）
11	<p>横浜地区学力向上推進連絡協議会</p> <p>教科内授業研修</p>
12	<p>習熟度別授業実施教科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期の研究のまとめ ・校内研修会 ・個に応じた指導と評価について ・3学期の研究計画と評価計画作成
1	<p>3学期「学びの内容と評価のめやす」冊子配付</p> <p>公開授業研究会（1月30日）</p>
2	<p>横浜地区学力向上推進連絡協議会</p> <p>基礎学力の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業実施教科会 ・習熟度別授業についての生徒アンケート ・本年度のまとめ ・個に応じた指導と評価について
3	<p>基礎学力の検証</p> <p>校内研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学期的研究計画と評価計画作成 ・1年間のまとめと次年度計画

平成15年度実践研究の内容

<p>研究テーマ・研究体制設定の工夫等</p> <p>「確かな学力の向上を目指して」</p> <p>研究の具体的内容</p> <p>平成14年度及び平成15年度の習熟度別授業の成果の検証</p> <p>「学力」「学力向上」「個に応じた指導」など、教科の担う役割の明確化</p> <p>子ども・保護者に開かれた評価の在り方の研究</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

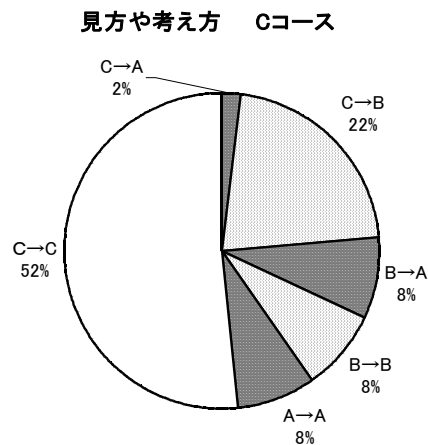
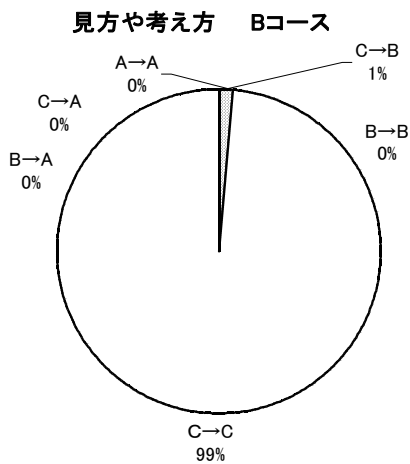
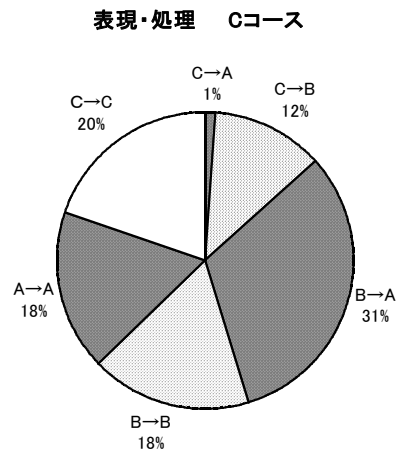
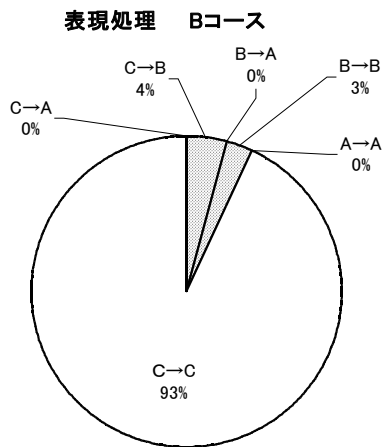
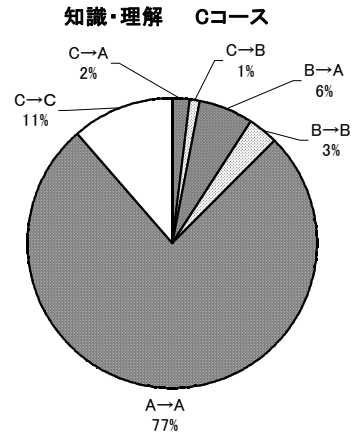
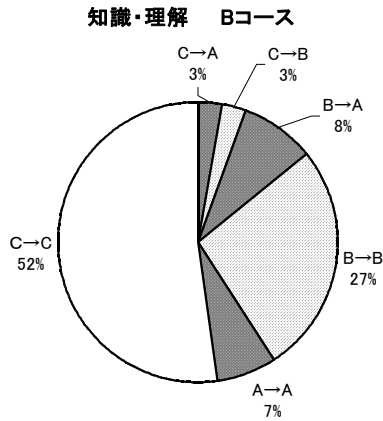
1. 研究成果

<p>教師 教科の学習内容・方法について共通理解が図れつつある。</p> <p>生徒 授業が楽しくなった、分かるようになったという生徒が増えた。</p>
--

生徒意識調査や生徒一人ひとりの学力の向上から、個に応じた教科指導の在り方について常に検証し、日々の授業改善を行った。

ここに、その一例である、数学科第2学年、英語科第2学年、英語科第3学年の生徒の変容、学力向上の具体例を載せる(Bコースは、Basic コース、Cコースは、Challenge コース)、
数学科第2学年

「知的な変容」...第2学年 横浜市中学校診断テスト(平成14年度 平成15年度)

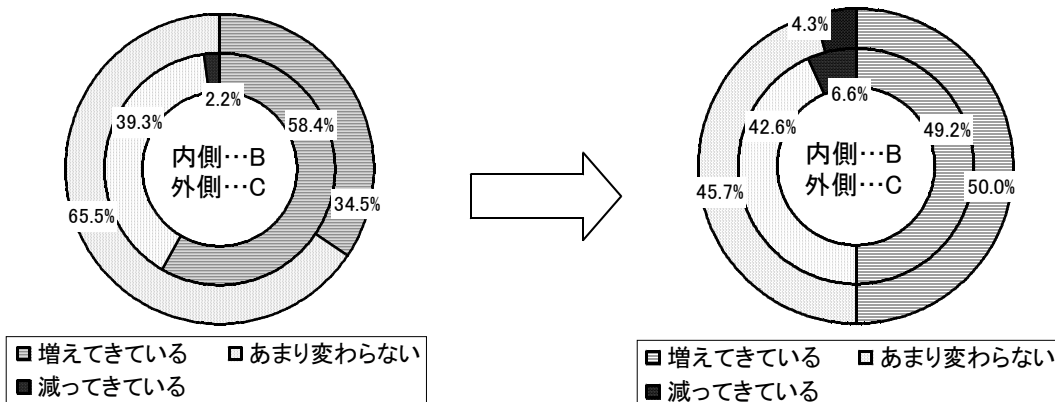


英語科第2学年 アンケート

(1) 英語が「分かる・できる・伸びている」という実態

1年生のときと比べて、2年生の1学期は？

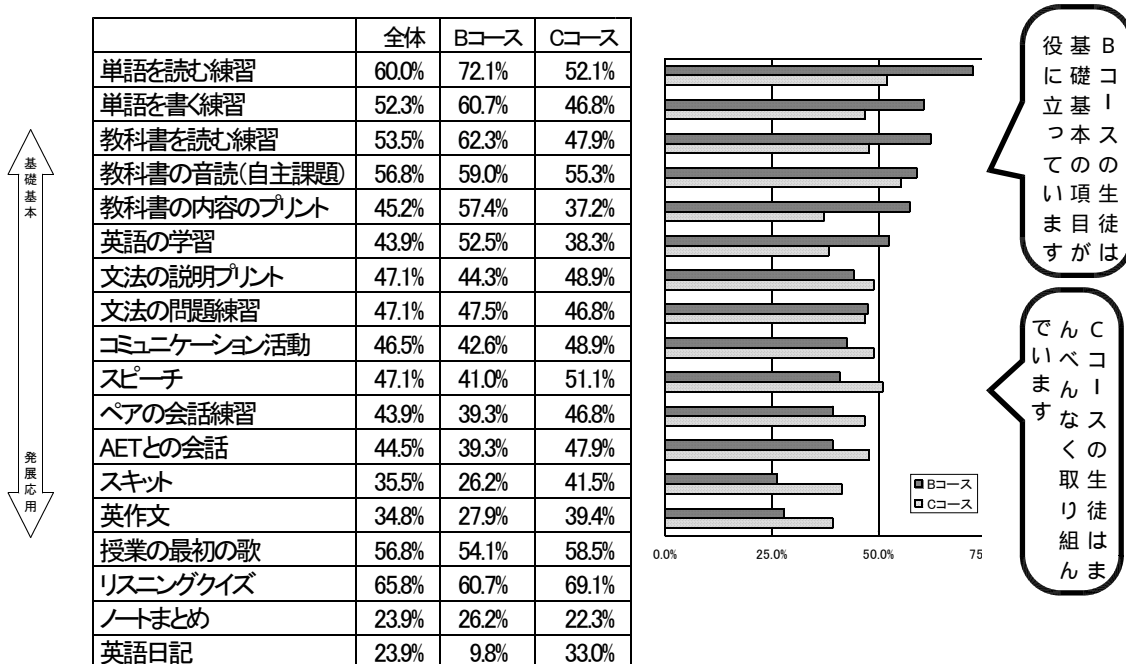
2年生の1学期と比べて、2学期は？



(2) 2学期に「増えてきている」と答えた人は、その根拠は何ですか？（複数回答可）

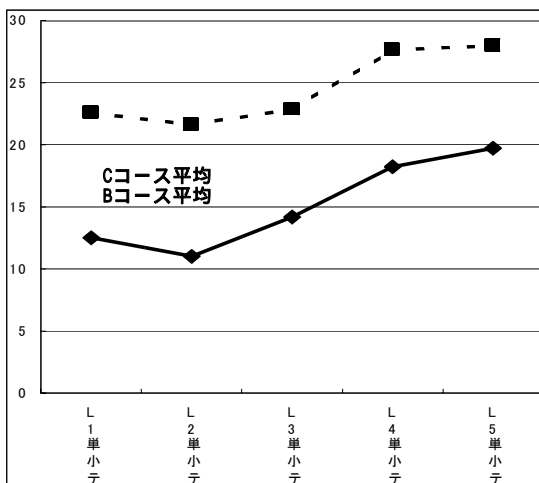
	全体	Bコース	Cコース
先生の言っていることが前より分かるようになった	33.5%	34.3%	32.1%
以前は読めなかった英文が読めるようになった	27.7%	31.3%	21.4%
以前より発音の仕方が分かるようになった	27.7%	25.3%	32.1%
自分のことが英語でいざ書けるようになった	27.1%	32.3%	17.9%
単語が以前より書けるようになった	26.5%	29.3%	21.4%
以前より分かるところと分からないところがはっきりしてきた	24.5%	28.3%	17.9%
過去形の作り方など、英語の決まり事(文法)が分かるようになった	23.9%	24.2%	23.2%
単語の意味がよく分かるようになった(言語・文化)	23.2%	26.3%	17.9%
英語の授業に積極的に取り組めるようになった	23.2%	27.3%	16.1%
教科書の大事な文章が自分で書けるようになった	14.8%	13.1%	17.9%
自分のことをまとめた英文を使って書けるようになった	12.9%	10.1%	17.9%
テストの点数が伸びてきている	12.9%	12.1%	14.3%
その他	2.6%	1.0%	5.4%

(3) 英語の学習活動の中で、好きな(ためになっている)活動はなんですか？（複数回答可）

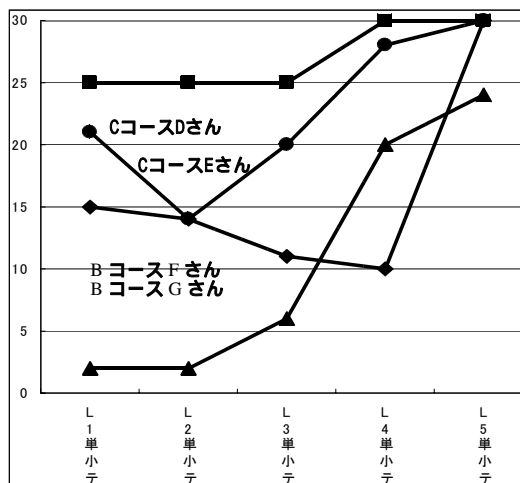


英語科第3学年 【生徒の変容、学力向上の具体例】

【1】Lesson1～Lesson5の英単語テストの
各コースの点数推移（平均点）



【2】CコースのDさんとEさん、Bコースの
FさんGさんの英単語テストの点数推移



2. 今後の課題

- * 平成15年度に明確化した「学力向上の具体例」の具現化を意識した指導の実践・検証
- * 総合的な学習の時間との関連付け
- * 生徒・保護者・市民がそれぞれに理解・納得できる「学力」「学力向上」の定義や意義について明らかにすること

学力等把握のための学校としての取組

- * 情意面の変容... 1学期末、学年末の2回の意識アンケート
- * 知的な面の変容... 市中学校診断テスト、校内定期テスト、授業中の観察

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 中間発表会の開催（平成16年1月30日（金） 本校）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無